

女性労働者の制服に関する意識調査

日本女大家政 ○千葉桂子

日本女大計算研 二宮玲子

目的 最近、企業のイメージを一新することの一環として、女子の制服を変える企業が、増えて来ている。女性の社会進出が著しい今日、実際に職場において制服を着用している人は、どのような意識を持っているだろうか。本研究では、現在着用している制服に対するイメージを業種および年齢に基づいて把握しさらに制服以外の私服に関する態度についての関連性や、それらにおける傾向の差異を捉え、実態を明らかにすることを目的とした。

方法 東京およびその近郊に在住・通勤する女性を対象に調査を郵送留置法により行った。その内訳は、18歳から55歳までの256名で、企業は38社にわたった。調査実施期間は1988年7月～12月である。主な調査項目は、個人の基本属性、勤務型態・年数、制服に対するイメージ・不満、制服の形態、理想的な制服のイメージ、私服の選択動機・関心などである。得られた回答について、クロス集計、数量化理論第Ⅰ類、主成分分析、クラスター分析を行い、検討した。

結果 現在の制服に満足している人は、全体の27.4%と少ない。私服について関心が強く、個性表現を重視する人は、制服においても同様に画一性を好まず、個性を尊重することがわかった。業種別では、接客が主である流通業勤務者はファッション性を重視し、デスクワークが多いメーカー、コンピュータ関係勤務者はファッション性よりも実用性を重視していることが捉えられた。また、私服に関心の強い者は、現在の制服に否定的な意見を持っており、逆に弱い者は肯定的な傾向を持つことがわかった。